

【普通作物】の【少雨・干ばつ】対策について <8月>

農業経営支援課

【早期水稲】（登熟期～成熟期）

（1）予想される被害状況

- ① 不稔や登熟不良が発生し、品質低下や減収となる。

（2）事前対策

- ① 水系毎に配水計画を定め、効率的に給水する。
- ② ほ場内に通水用の溝やポリチューブ、波板等を設置し効率的に配水する。
特に出穂期直後は、走り水程度でも給水に努める。
- ③ 海に近い河川や地下水から給水する場合は、海水の混入に注意する。

（3）事後対策

- ① 海水の混入があった場合は、真水の給水に努め塩分濃度低下を図る。
- ② 土壤乾燥が続いた後に、急に湛水すると青立ちが発生する場合があります。
で、間断かん水で管理し徐々に湛水に慣らす。
- ③ 成熟期に達した稲は、速やかに収穫する。

【普通期水稲】（幼穂形成期～穂揃期）

（1）予想される被害状況

- ① 幼穂の発育に障害を受け減収する。
- ② ウンカ、紋枯病、いもち病等が多発しやすくなる。

（2）事前対策

- ① 水系毎に配水計画を定め、効率的に給水する。
- ② ほ場内に通水用の溝やポリチューブ、波板等を設置し効率的に配水する。
特に穂孕期から出穂期にかけては、走り水程度でも給水に努める。
- ③ ウンカ、紋枯病、いもち病の発生に注意し遅れないように防除する。
- ④ 海に近い河川や地下水から給水する場合は、海水の混入に注意する。
- ⑤ 穂肥施用時は、湛水となるように給水に努める。

（3）事後対策

- ① 海水の混入があった場合は、真水の給水に努め塩分濃度低下を図る。
- ② 土壤乾燥が続いた後に、急に湛水すると青立ちが発生する場合があります。
で、間断かん水で管理し徐々に湛水に慣らす。

【大豆】（播種期～生育・開花期）

（１）予想される被害状況

- ① 土壤水分が不足すると発芽不良となる。
- ② 発芽後は、生育が不良となったり、開花や着莢が悪くなる。
- ③ ハスモンヨトウ等の害虫が多発しやすくなる。

（２）事前対策

- ① 用水路から入水が可能な場合は、土壤水分を適度に高めてから耕耘し、播種作業を行う。
播種直後に畦間に入水を行う場合は、昼間の高温時に入水すると種子の腐敗が生じやすいので、夕方以降に行う。通水後は速やかに排水する。
なお、通水は過剰に行うと過湿となり発芽障害を起こすので注意する。
- ② 土壤が乾燥している場合の播種は、やや深めにして覆土を鎮圧する。
- ③ 雑草が水分を収奪するので、除草剤や中耕・培土で除草に努める。
なお、中耕は乾燥を助長するので適期に浅く行う。
- ④ 害虫の発生に注意し、遅れないように防除する。

（３）事後対策

- ① 発芽不良で欠株が多かった場合は、追播きや再播種を行う。
- ② 残草が多い場合は、茎葉除草剤で処理する

【秋そば】（播種期～生育期）

（１）予想される被害状況

- ① 土壤水分が不足すると発芽不良となる。
- ② 発芽後の生育が不良となる。

（２）事前対策

- ① 用水路から入水が可能な場合は、土壤水分を適度に高めてから耕耘し、播種作業を行う。
播種後に畦間に入水を行う場合は、過湿にならないよう注意する。
- ② 雑草が水分を収奪するので、条播きでは早めに除草を行う。
- ③ 播種期の範囲内で降水を待ち播種するが、播種時期の遅れに応じて播種量を多くする。

（３）事後対策

- ① 発芽不良で欠株が多かった場合は、追播きや再播種を行う。